

平成 22 年 5 月 6 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19320026

研究課題名（和文） 模倣の意味と機能—写す・抜き出す・変容させる

研究課題名（英文） The study on meaning and function of imitation: Copy/Extraction/Alteration

研究代表者

根立 研介（NEDACHI KENSUKE）

京都大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：10303794

研究代表者の専門分野：日本美術史

科研費の分科・細目：哲学、美学・美術史

キーワード：模倣、模写、型、古典学習

### 1. 研究計画の概要

美術における模倣は、ある意味きわめて一般的な事象である。しかしながら、模倣は、対象となる美術品を単に写すと言うことだけではなく、対象からある表現上のエッセンスを抜き出し、それを創造の源泉として活用すること、さらには模倣の対象となるものとそれに基づき造り出されたものの中には表現上の類似性がほとんど認められないのに、ある種のキーワードとなる表現、さらには両者を規定する概念の存在を見いだせれば、模倣という行為が行われたと認識される場合さえある。こうした美術にかかわる現象は、洋の東西を問わず発生しており、模倣には従来の概念では語り尽くせない様々な形態があることが分かる。このような、いわば模倣の概念の拡大といった現象が何故発生してきたかを解明するためには、改めて模倣の意味や機能そのものを問い直す必要性があり、本研究はその解明を目指す。

### 2. 研究の進捗状況

本研究は、研究代表者（1 人）、研究分担者及（2 人）び連携研究者（7 人）を以下の三班に分けて研究を進めてきた。まず、根立を中心とする日本彫刻史研究者班では、清凉寺釈迦如来像など霊験仏についての研究が大きく進展している。特に長谷寺式十一面観音像と善光寺式阿弥陀三尊像については、当初予定した以上に資料収集が進展し、予想以上に研究成果が上がっている。連携研究者の田島を中心とする日本近世・近代絵画研究者班については、狩野派及び琳派に関する資料収集が進んでおり、研究会でその成果が発表されている。研究分担者の中村及び平川を中心と

するヨーロッパ美術史研究者班については、平川が海外調査を積極的に行い、北方ヨーロッパの風景表現における古代の模写についての研究が進展している。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

研究分担者及び連携研究者の研究は、概ね順調に進んでおり、当初計画は概ね達成している。特に注目されるのは、日本彫刻史研究者班において、善光寺式阿弥陀三尊像及び長谷寺式十一面観音像の模刻について、予想以上の資料収集が進んでいる点である。ただし、海外調査については、昨年度、研究代表者の根立が体調を崩し、海外での情報収集が予定よりも進んでいないところがある。また、日本近世・近代絵画研究者班については、連携研究者が諸般の事情で海外調査の実施を見送らざるを得ない事情が発生し、国内での資料収集に専念している。したがって、ヨーロッパ美術史研究者班以外の分野の海外資料収集は、当初の目標を一部達成していないところがある。

### 4. 今後の研究の推進方策

本年度は、本研究の最終年度にあたり、これまで資料収集を行ってきた研究代表者・研究分担者・連携研究者は各自のテーマに沿って研究を取り纏める作業に入る。そして、その研究成果を、年度末に刊行の報告書に論文として発表する予定である。

なお、「3. 現在までの達成度」で記したように海外での資料収集が若干遅れている。この点に関しては、日本彫刻史研究者班は本年度ヨーロッパ及び中国、韓国で補完調査を行

う予定であり、またヨーロッパ美術史研究もヨーロッパにおける調査をさらに続行する予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 13 件)

- ①根立研介「彫刻史における和様の展開と継承をめぐって」、『哲学研究』、583、1-24、2007、有
- ②根立研介「彫刻の和様の継承と七条仏師」、『美術フォーラム 2 1』、15、132-135、2007、有
- ③根立研介「院政期 興福寺にかかわる大仏師をめぐる補論」、『佛教藝術』、295、57-72、2008、有
- ④根立研介「定朝をめぐる二、三の問題—僧綱位授与の問題を中心に—」、『鳳翔学叢』、4、13-31、2008、有
- ⑤根立研介「日本の肖像彫刻と遺骨崇拜」(『死生学研究』、11、57(380)-82(364)、2009、無
- ⑥中村俊春「自立への苦闘—若きヴァン・ダイクとルーベンス」、『西洋美術研究』、13、158-184、2007、有
- ⑦平川佳世「銅板油彩画の誕生をめぐって」、『京都美学美術史学』、8、1-31、2009、有
- ⑧武笠朗「善光寺信仰とその造像をめぐって」、『佛教藝術』、307、35-49、2009、有
- ⑨皿井舞「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織 上」『美術研究』、392、1-21、2007、有
- ⑩皿井舞「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織 中」『美術研究』、393、15-29、2008、有
- ⑪皿井舞「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織 下」、398、263-292、2009、有
- ⑫田島達也「美人画に見る京美人」、『美術フォーラム 2 1』、15、100-103、2007、有
- ⑬深谷訓子「人名で読むカーレル・ファン・マンデル」『画家の書』、『西洋美術研究』、13、138-157、2007、有

[学会発表] (計 3 件)

- ①根立研介「仏師論から見た日本彫刻史の時代区分」、第 52 回国際東方学会議、日本教育会館、2007 年 5 月 18 日
- ②平川佳世「銅板油彩画の誕生をめぐって」、第 7 回京都美学美術史学研究大会、京都大学、2008 年 12 月 13 日
- ③田島達也「「無邪気な子供たち」を見る絵—唐子遊図をめぐって—」、第 62 回美術史学

会全国大会シンポジウム、京都大学、2009 年 5 月 23 日

[図書] (計 6 件)

- ①根立研介『ミネルヴァ日本評伝選 運慶—天下復タ彫刻ナシー』、全 228 頁、ミネルヴァ書房、2009 年
- ②根立研介 (編著)『室町時代の彫刻 中世彫刻から近世彫刻へ 日本の美術 494』、全 98 頁、2008 年
- ③水野敬三郎、根立研介ほか 5 人との共編著『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代 造像銘記篇』6、解説冊全 236 頁、図版冊全 208 頁、中央公論美術出版、2008 年
- ④水野敬三郎、根立研介ほか 5 人との共編著『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代 造像銘記篇』7、解説冊全 182 頁、図版冊全 228 頁中央公論美術出版、2009 年
- ⑤水野敬三郎、根立研介ほか 5 人との共編著『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代 造像銘記篇』8、本篇解説冊全 190 頁・図版冊全 182 頁、補遺篇全 168 頁、2010 年
- ⑥中村俊春編著『前近代における「つかのまの展示」研究』(平成 17 年度～平成 20 年度科学研究費補助金 基盤研究 (B) 研究成果報告書)、研究代表者中村俊春、2009 年

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]